

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	応用数学演習(5203)	
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	産業システム工学専攻マテリアル・バイオ工学コース		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	工科系 線形代数 [新訂版] 筧 三郎 著 (数理工学社)						
担当教員	鳴海 哲雄						
到達目標							
線形（ベクトル）空間、線形写像（変換）、固有値・固有ベクトル、対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が理解できることが目標となる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	換）。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が正確に理解できること		線形（ベクトル）空間、線形写像（変換）。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が理解できること		換）。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が理解できない		
評価項目2	固有値・固有ベクトル。各項目での用語の定義とその応用（計算方法）が理解できること		固有値・固有ベクトル。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が理解できること		固有値・固有ベクトル。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が理解できない		
評価項目3	対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義を理解できること		対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が理解できること		対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義とその概要（計算方法）が理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科での線形代数をもとに、さらに理工系学生として必要な数学的能力を習得して、現在専攻している応用分野に十分活用できるように、例題・演習問題を解答して計算力をつけ、理論の内容を納得することが目標である。						
授業の進め方・方法	本科での内容についても復習をするが、細部については各自のレベルで復習を十分にしてほしい。授業では、用語と基本定理の説明・証明をし、教科書の例題の解法を解説していく。多くの定理の証明は省かざるを得ないが、できるかぎり活用例で補っていく。						
注意点	授業で解説した例題の後に続く問題を必ず自分で解決して、内容の理解に努めてほしい。ポイントとなる箇所では、達成度確認のために課題を課すので確実に提出すること。疑問点については、オフィスアワーも活用すること。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	1章 行列とベクトル			基本事項を理解する	
		2週	2章 連立1次方程式の解法（ガウス・ザイデル法も紹介）（1）			基本事項を理解する	
		3週	2章 連立1次方程式の解法（ガウス・ザイデル法も紹介）（2）			基本事項を理解する	
		4週	3章行列式（本科2年次の復習）（1）			基本事項を理解する	
		5週	3章行列式（本科2年次の復習）（2）			基本事項を理解する	
		6週	4章 線形空間（1）			基本事項を理解する	
		7週	4章 線形空間（2）			基本事項を理解する	
	2ndQ	8週	中間試験				
		9週	5章 線形写像（1）			基本事項を理解する	
		10週	5章 線形写像（2）			基本事項を理解する	
		11週	6章 固有値・固有ベクトル（1）			基本事項を理解する	
		12週	6章 固有値・固有ベクトル（2）			基本事項を理解する	
		13週	6章 固有値・固有ベクトル（3）			基本事項を理解する	
		14週	6章 固有値・固有ベクトル（4）			基本事項を理解する	
		15週	期末試験				
16週	期末試験の答案返却						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	10	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0